ヨハネによる福音書 12章12〜19節

12 [12] その翌日、祭りに来ていた大勢(おおぜい)の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、[13] なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして、叫び続けた。

「ホサナ。

主の名によって来られる方に、祝福があるように、

イスラエルの王に。」

[14] イエスはろばの子を見つけて、お乗りになった。次のように書いてあるとおりである。

[15] 「シオンの娘よ、恐れるな。

見よ、お前の王がおいでになる、

ろばの子に乗って。」

[16] 弟子たちは最初 これらのことが分からなかったが、イエスが栄光を受けられたとき、それがイエスについて書かれたものであり、人々がそのとおりにイエスにしたということを思い出した。[17] イエスがラザロを墓から呼び出して、死者の中からよみがえらせたとき一緒にいた群衆は、その証しをしていた。[18] 群衆がイエスを出迎えたのも、イエスがこのようなしるしをなさったと聞いていたからである。[19] そこで、ファリサイ派の人々は互いに言った。「見よ、何をしても無駄だ。世をあげてあの男について行ったではないか。」